



これはなに?

『炭焼き窯』

これは、赤沢で見つけた「炭焼き窯」です。石田忠一さんが現在も使用しているもので、昭和24年に造られて以来、46年間も使い続けられているのだそうです。外観には、長い歳月を経たものが持つ、独特の風格が漂い、いかにも頑丈そうに見えます。窯の厚さは1尺以上もあるそうです。ちなみに、この窯で一度に焼ける炭の量は15kg入りの袋にして23袋ほどとのこと。出来上がった炭は近隣の鉄工所などへ出荷されています。

赤沢では、昭和30年ごろまでは各家々でこのような炭焼き窯を持ち、炭を焼いていたようですが、現在では、市内で炭焼き窯を見かけることはほとんど無くなりました。

夢中 熱中 青春ライフ!

アローズアッス

④

大館ジャズクラブ

今世紀初頭、アメリカの黒人音楽がヨーロッパ音楽と融合して発生したジャズ音楽。「スイング」と呼ばれる、独特の揺れるようなリズム感がファンの心を引き付けます。今回は「大館ジャズクラブ」の会長、菅原徹さんにお話を伺いました。

「大館ジャズクラブ」を結成したのは大館のジャズ熱が全盛期にあった昭和四十八年のことでした。会員を含めた地元のアマチュア演奏家による演奏会を年一回程度行っているのですが、結成から二十年余りを経た現在は、結成当時のアマチュア演奏家も各自の職場の要職に就き、仕事が忙しいので、なかなか思うように演奏会は開けません。そのため、会員宅などを会場に、お互いの愛聴盤を持ち寄ってのレコード鑑賞会を年五、六回開いたり、一流ジャズメンの生演奏を聴くために盛岡市や仙台市などへ出かけたりするのが主な活動になっています。

現在の会員は男性ばかりの十人。楽器演奏が好きな人や、スピーカーやアンプを自作してしまふほどのオーディオオマニア、レコードの収集に熱中して、七千枚近いレコードを所有している人など、その個性は様々です。今後はジャズの魅力をより多くの人に知ってもらえるよう、活動を盛んにしていきたいと思っています。また、会員を募集していますので、ジャズに興味がある人は男女を問わず、菅原(☎42-8840)へご連絡ください。



アマチュア演奏会の一コマ

大館の方言講座

植物に関する言葉

- ◆ヨゴミーヨモギ
- ◆チッコ・チソーシツ
- ◆トッコ・シソノトシツの実
- ◆ゴンボーゴボウ
- ◆ジャゴー大根
- ◆ナンバートウガラシ
- ◆ニドマメーエンドウ
- ◆アネッコーヌスピトハギ
- ◆ゴドエモ・ニドエモージャガイモ
- ◆アキビ・アグビーアケビ
- ◆ドフーカボチャ
- ◆バッキヤーフキノトウ
- ◆バッコー切り株
- ◆マッコウノキー桂

『大館市史』より

- ☐ 親子読みきかせ会 毎月第1金曜日 14時30分?
- ☐ 中央図書館の休館日 8月21日、25日、9月1日~15日 (虫干しのため)
- ☐ 8月のテーマ関連図書コーナー 『こわい話』
- ☐ 児童書
 - ◆ふしぎ動物大図鑑(D・ピーターズ) ◆森のネズミのおるすばん(岡野薫子) ◆マンゲローブ林の迷宮(クストー) ◆消えたムー大陸のなぞ(たかしよいち) ◆ビビビビ(五味太郎) ◆花ぶぶき江戸のあだうち(舟崎克彦) ◆恐竜の生態図鑑(学習研究社) ほか
- ☐ 一般書
 - ◆白神山地・ブナの森(斉藤弘也) ◆永遠のスイス登山鉄道(池田光雅) ◆やさしく作れる麻の服(藤井あつ子) ◆平成官僚論(大前研一) ◆宮澤賢治・宝石の図誌(板谷栄城) ◆照柿(高村薫) ◆神道事典(国学院大学日本文化研究所) ◆僕が(化学者)になった理由(北野大) ◆ピリミリガンと23の棺(上・下)(ダニエル・キイス) ◆森の人(大岡玲) ◆幻色江戸ごよみ(宮部みゆき) ほか



私の本棚

中央図書館新着図書



『草 笈』

瀬戸内 寂聴 著
中央公論社

七十余年生き、書き続けても自分自身を知る事は難しい。庭の草木や人との関わりの中で静かに心を見つめて描かれた、十一の心象風景。

